

## 板橋区環境教育推進プランの進捗状況について

本プランは、持続可能な社会の構築に向けて、板橋区における環境教育の基本的な方針を示すとともに、区民、区民団体、事業者、学校等、区が展開すべき環境教育の推進に必要な事項を定めることにより、各主体それぞれの環境教育及び各主体の連携による環境教育の効率的・効果的な推進を目的とし、平成 19 年 2 月に策定された。

本プランの進行管理は、PDCA サイクルを用い、指標による目標の達成状況により点検・評価することとし、環境教育が効果的に実施されているかどうかをはかるものさしとして、15 の成果指標を設定し、平成 19 年度から平成 27 年度までの 9 年間の数値目標を立てている。

計画の 7 年目にあたる平成 25 年度末における成果指標の達成状況について、以下のとおり報告する。

## 1. 成果指標及び目標に対する進捗状況

成果指標	計画当初 平成 17 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	目標 (平成 27 年度)	達成率
① エコポリスセンターホームページのアクセス件数	83,880 件	20,306 件	37,164 件	36,500 件	101%
② 環境教育プログラム利用学校数	-	59 校	59 校	全校(77 校)	76.6%
③ プログラムバンクの登録人数	-	194 人	175 人	300 人	58.3%
④ プログラムバンクの登録プログラム数	-	187 件	192 件	200 件	96.0%
⑤ いたばしエコ・ショップの店舗数	97 店舗	102 店舗	102 店舗	150 店舗	68.0%
⑥ 環境保全キャンペーン参加者数	24,673 人	30,240 人	29,564 人	30,000 人	98.5%
⑦ エコチェックシートの得点 (エコチェックシート参加者数)	54.5 点 (488 人)	57.8 点 (3,872 人)	54 点 (4,308 人)	満点(70 点)	77.1%
⑧ 小・中学校における環境学習の時間数	-	4,118 時間	3,913 時間	4,000 時間	97.8%
⑨ 環境講座等参加者数 (内エコポリスセンター環境講座等参加者数)	15,423 人 (4,199 人)	21,283 人 (11,349 人)	22,621 人 (12,278 人)	30,000 人 (10,000 人)	75.4% (123%)
⑩ 環境イベント等参加者数 (内エコポリスセンター環境イベント等参加者数)	53,623 人 (34,858 人)	52,163 人 (27,321 人)	57,645 人 (41,155 人)	60,000 人 (50,000 人)	96.0% (82.3%)
⑪ エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	341 人	534 人	1,066 人	1,000 人	106.6%
⑫ エコポリスセンター登録環境団体数	10 団体	21 団体 (こどもエコクラブ 6 団体含む)	19 団体 (こどもエコクラブ 3 団体含む)	30 団体	63.3%
⑬ こどもエコクラブ登録団体数	7 団体	-	-	⑫に統合	-
⑭ 集団回収登録団体数	782 団体	842 団体	853 団体	900 団体	94.8%
⑮ 環境学習講師派遣実施件数・派遣人数	120 人 (延 29 件)	265 人 (延 117 件)	399 人 (延 133 件)	500 人	79.8%

## 2. 進捗状況の結果について

成果指標のうち、目標値を達成している項目は、①エコポリスセンターホームページのアクセス件数、②エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数、の2件であった。また、前年度からポイントの上がったものが7項目、下がったものが5項目、変わらなかったものが2項目であった。各指標の概要は以下のとおり。

### ①エコポリスセンターホームページアクセス件数

#### <指標の説明・目的>

本指標は、エコポリスセンターホームページを通じて環境情報の発信や講座やイベント情報の発信など、環境に関心をもっていただくためのツールの一つとして指標にしたもの。

#### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 . . . . . 260,000 件  
22年度改定 . . . . . 73,000 件  
24年度改定 . . . . . 36,500 件

#### <25年度の取組結果と増減>

25年度	37,164件/年(102件/日)	ホームページ...22,638件、Facebook...14,526件
前年度比	+16,858件/年(+46件/日)	ホームページ...+6,666件、Facebook...+10,192件

#### <要因分析と方向性>

ホームページ・フェイスブックともにアクセス件数が増加した。

センターの事業に関する情報の見せ方や発信の工夫を行いながら、Facebook、Twitterの更新頻度を上げ、区民の目に触れる機会を増やしていく。また、区民が「見たい」、「知りたい」と思う情報は何か、という視点を持ち、変化に対応していく。

### ②環境教育プログラム利用学校数

#### <指標の説明・目的>

環境教育プログラムとは、さまざまな場において実践されている環境教育・環境学習の中から、板橋区の地域特性などを加味しながら、発達段階に応じて開発した体験的・実践的なプログラム。

環境教育・環境学習を行う際に、教員などの指導者が活用（または参考に）しやすいように、プログラムの進め方や時間配分、使用する道具やワークシートなどを掲載した「環境教育ハンドブック」を作成している。また、その内容を「プログラムバンク」に登録し、インターネット上で公開している。ハンドブックは区立全小中学校と、公立・私立の保育園・幼稚園へ配布している。

本指標は、区立小中学校においてハンドブックとプログラムバンクのいずれかを活用している学校の数をあらわすもの。

#### <25年度の取組結果と増減>

25年度	59校/77校 (小学校44/54校、中学校15/23校)
前年度比	±0校

なお、25年度に利用の多かったプログラムは『No.22 緑のカーテンを作ろう』（46校）、『No.10 ごみはどうやったら減るんだろう』（31校）、『No.7 地球温暖化ってなんだろう』（27校）であった。

#### <要因分析と方向性>

環境教育ハンドブック（またはプログラムバンク）に対する教職員への認知度はいまだ低く、ハンドブックの発行当初からの課題となっている。そのため、校長会や各教員研究部会などへの周知をさらに行ないながら、総合的な学習の時間に限らず、社会科、理科など様々な教科で活用できることも含めてPRしていく。

授業時間以外での活用についても、部活動や移動教室での活用など様々な事例を集めて紹介することで、活用の広がりを見つけていく。

### ③プログラムバンク登録人数

#### <指標の説明・目的>

環境教育・環境学習は、学校や保育園、エコポリスセンターなど行政だけで行うだけでなく、様々な区民や環境団体等の担い手による環境学習の機会を促進し、多様な環境教育活動に対応していこうとするもの。本指標は、ボランティアとして、様々な場で活躍できる環境教育の担い手（指導者）の人数を指標としている。エコポリスセンターの登録ボランティアのほか、「かんきょう観察員」、「インターンシップ」、「緑のカーテンサポートクラブ」、「熱帯環境植物館インタープリター」、「緑のサポーター会議メンバー」を合計している。

登録指導者は、エコポリスセンターなどの事業のほか、学校や地域などから環境学習の要請があったときに内容に応じて派遣している。

#### <25年度の取組結果と増減>

25年度	175人
前年度比	-19人

#### <要因分析と方向性>

近年、高齢を理由に更新を辞退される方もあり、若手の人材確保も喫緊の課題となっている。今後も目標達成に向けて、指導者養成講座の参加者などへ登録を呼び掛けていく。現在は区内の専門学校と協定を結んでおり、環境教育の人材として活用していくための仕組み作りを行なっている。

### ④プログラムバンク登録プログラム数

#### <指標の説明・目的>

指標②環境教育プログラムをインターネット上で公開する「プログラムバンク」に登録しているプログラムの件数をあらわすもの（平成19年度からの登録数の累計）。

環境教育の幅広い分野を網羅し、また発達段階に応じたプログラムを提供するため、毎年プログラムを追加している。

数値は「板橋区環境教育プログラム」と「環境教育プログラム事例」を合計した数。前者は環境教育プログラム部会において開発された板橋区独自の環境教育プログラム。後者は全国で実践されているプログラム事例を収集し、その概要を紹介するもの。

#### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 . . . . . 300件

22年度改定 . . . . . 200件

#### <25年度の取組結果と増減>

25年度	192件（環境教育プログラム77件、プログラム事例115件）
前年度比	+5件

25年度は「板橋区環境教育プログラム」4件と「プログラム事例」を1件、新たに登録した。

さらに、既存プログラムのうち、データが古くなっているプログラムなどの改善を行った。

#### <要因分析と方向性>

23年度以降、平成27年目標値の達成の見通しができたため、プログラム数の充実から内容の充実にシフトし、新規プログラムの開発と同時に、過去に登録してきた既存プログラムの見直しと改善を進めている。引き続き、新規プログラムの開発と事例収集によって目標値達成を目指しつつ、活用促進の視点で既存プログラムの改善も進めていく。さらに、話題性・緊急性のあるテーマをプログラム化し、活用を高めていく。

## ⑤いたばしエコ・ショップ店舗数

### <指標の説明・目的>

「いたばしエコ・ショップ」は、ごみの減量及び再生商品の販売その他リサイクルに積極的に取り組んでいる事業者を、区がリサイクル推進事業者として認定し、区民にホームページ等で紹介している。

### <25年度の実績結果と増減>

25年度	102店舗
前年度比	±0

### <要因分析と方向性>

区民への周知は、ホームページでの公開のほか、区民まつり等のイベントでパンフレットによる紹介を行っている。今後は、区民まつり等のイベントでのPRやエコ・ショップスタンプラリーなどの実施を検討し、登録を促していく。

## ⑥環境保全キャンペーン参加者数

### <指標の説明・目的>

エコポリス板橋環境行動会議との共催によるポイ捨て防止キャンペーンやクリーン作戦など、広く区民に呼び掛けて取り組んだ事業（キャンペーン）の参加者数を指標としている。

### <25年度の実績結果と増減>

25年度	29,564人
前年度比	-676人

### <要因分析と方向性>

主な減少の要因は、「打ち水キャンペーン（約700人減）」（渇水による取水制限が実施されたことにより区民の節水への意識が高かったこと・天候の不安定で週末に降雨が多かったことなどが原因と考えられる）、「エコチャレンジ（約500人減）」（実施なし）等。一方では、「エコライフフェア」（約960人増）等のように人数が増加したものもある。

今後も各キャンペーンの目的や効果が広く区民に浸透するよう、PR方法の改善などを図り、参加者数の増加につなげていく。

## ⑦エコチェックシート得点

### <指標の説明・目的>

区民の環境意識の変化について状況を把握するために行っているチェックシート。チェック項目を点数化し、意識の度合いが上がっているか確認するもの。イベントや講座等でチェックしている。

### <25年度の実績結果と増減>

25年度	54点/70点満点（参加者数4,308人）
前年度比	-3.8点（参加者数+436人）

### <要因分析と方向性>

それぞれの項目が区民の日常生活に定着するよう、今後も啓発活動を続けるとともに、点数の低い項目（地域での清掃活動、エコ商品の購入）に焦点をあてた取り組みやキャンペーンを検討し、平均点の上昇につなげていく。

シートの回答で、「やらない」と「できない」の回答がわかりづらい為、参加者に対する回答方法の説明不足についても原因と考えられるため、きめ細やかな説明を心がけるように指導している。

### ⑧小中学校における環境学習の時間数

#### <指標の説明・目的>

区立小中学校において、環境学習がどれくらい実施されているかをはかる指標。毎年、取り組み状況をアンケート調査している。

#### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 . . . . . 2,000 件 ※計画当初は授業件数を指標としていたが、学習の実施規模を把握するため授業“時間数”を指標とした。

22 年度改定 . . . . . 4,000 時間 (授業単位時間)

※板橋区では、「環境学習」は小学 3 年生から中学 3 年生までの各学年で、総合的な学習の時間を中心に必ず実施するように年間指導計画の中で位置付けられている。

#### <25 年度の取組結果と増減>

25 年度	3,913 時間
前年度比	-205 時間

#### <要因分析と方向性>

205 時間の内訳は小学校で 154 時間、中学校で 51 時間減少した。1 校あたり約 2.6 時間の減。

実施状況は各学校により、かつ、年によりバラつきは見られる。必ず実施することにはなっているが、時間数の設定がないため、その年の状況により多少の増減は見られる。今後も環境教育カリキュラムや環境教育プログラムを充実し、より板橋らしい環境教育が浸透していくことを目指し、4,000 時間以上を維持するようにしていく。

### ⑨環境講座等参加者数

#### <指標の説明・目的>

エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の実施状況やその参加者数を集計し、指標としている。

#### <25 年度の取組結果と増減>

25 年度	22,621 人 (うちエコポリスセンター実施分 12,278 人)
前年度比	+1,338 人 (うちエコポリスセンター実施分+929 人)

#### <要因分析と方向性>

主な増加の要因は、多いものから「学校等における環境出前講座や講師派遣 (約 1000 人増) : エコポリスセンター」「熱帯環境植物館における講習会・講演会 (約 400 人増)」等。

今後はさらにボランティアや環境団体の自主企画講座など支援することで、環境講座の実施件数や参加者数を増やしていく。

### ⑩環境イベント等参加者数

#### <指標の説明・目的>

区民の環境意識の向上のために実施している環境イベント等の参加者数を増やし、区民の環境への関心を高めるという指標。エコポリスセンターの環境イベントのほか、みどりと公園課のグリーンフェスタや区民まつりでの環境コーナーへの参加者数などを集計している。

#### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 . . . . . 100,000 人 (内エコポリスセンター環境イベント等参加者数 60,000 人)

22 年度改定 . . . . . 60,000 人 (内エコポリスセンター環境イベント等参加者数 50,000 人)

#### <25 年度の取組結果と増減>

25 年度	57,645 人 (うちエコポリスセンター実施分 41,155 人)
前年度比	+5,482 人 (エコポリスセンター実施分+13,834 人)

### ＜要因分析と方向性＞

主な増加の要因は、エコポリスセンターの新規事業により参加者数が増大したため。「企業団体等のエコ情報の展示（約 19,000 人増）」「環境アトラクション（約 1000 人増）」等。「大学との連携事業」も約 600 人増加している。平成 24 年度はエコポリスセンターの施設改修工事によりイベント等が実施できず、参加者数が減少したが、平成 25 年度は回復した。

今後もエコポリスセンター内の環境イベントに加え、大学祭や地域イベントへの積極的な出展も実施していく。

## ⑪エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数

### ＜指標の説明・目的＞

環境教育・環境学習の担い手（指導者やサポーター）をできる限り増やし、区内全域で環境ボランティアが活躍するよう目指している。本指標は、具体的にエコポリスセンターの事業に協力したボランティアの人数を指標としている。

### ＜25 年度の実績結果と増減＞

25 年度	1,066 人
前年度比	+532 人

### ＜要因分析と方向性＞

主な増加の要因は、ボランティア導入件数の増加にある（85 件⇒247 件に増加）

今後は引き続き、エコポリスセンターの事業で積極的なボランティア導入やエコライフサポーターの拡大を行なっていく。

## ⑫エコポリスセンター登録環境団体数

### ＜指標の説明・目的＞

本指標は、エコポリスセンターに登録している環境活動団体の数を指標としている。環境団体を増やし、区内の環境教育・環境学習の担い手として、ボランティアと同様に大きな役割を期待している。

### ＜25 年度の実績結果と増減＞

25 年度	19 団体（こどもエコクラブ 3 団体含む）
前年度比	-2 団体

### ＜要因分析と方向性＞

前年度からこどもエコクラブの登録が 3 団体減少した。

今後は、講座やイベント、展示などの事業協力をきっかけに学生団体やサークルなどにも登録を呼び掛けていく。また、保育園や学童クラブが母体となる団体が多いことから、全あいキッズを対象に積極的に呼びかけを行なっていく。既存のエコクラブ団体が継続していけるように団体との交流を密にしていくことも課題である。

## ⑬集団回収登録団体数

### ＜指標の説明・目的＞

住民が 10 世帯以上集まって団体をつくり、収集の日時や場所をきめて、定期的に古紙（新聞・雑誌・段ボール）や古布などを集め、資源回収業者に引き渡す自主的な活動。その団体数を指標としている。

### ＜計画当初の目標値と現在の目標値の変更について＞

当初の目標値 ・ ・ ・ ・ ・ 880 団体

22 年度改定 ・ ・ ・ ・ ・ 900 団体

### ＜25 年度の実績結果と増減＞

25 年度	853 団体
前年度比	+11 団体

### <要因分析と方向性>

例年、マンション等の建設などにより年間10数件の増加がある。ごみの減量に寄与する身近なリサイクル活動であると同時に、地域コミュニティの醸成にも寄与しているため、今度も取り組みを促進していく。

## ⑮環境学習講師派遣実施件数・派遣人数

### <指標の説明・目的>

本指標は、区内保育園や小中学校等における環境学習の出前講座を行う際にエコポリスセンターから指導者やサポーター、職員（スタッフ）を派遣した人数を指標としている。

### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 ・ ・ ・ ・ ・ 実施件数 全校（77校）、派遣人数 500人

22年度改定 ・ ・ ・ ・ ・ 派遣人数 500人

### <25年度の取組結果と増減>

25年度	399人（派遣件数延133件）
前年度比	+134人（+16件）

### <要因分析と方向性>

派遣件数・派遣人数ともに増加している。1回あたりの出前授業に要する派遣人数も増加している。指導者の育成のため、インターンなどの学生をできるだけ多く参加させていることが増加の要因と考えられる。

今後も、派遣件数の拡大のため、保育園や小中学校に対し積極的にPRを行っていくとともに、ボランティアの参加を促し、指導者養成につなげていく。

### 3. 成果指標の内訳

「資料2-2」に成果指標①～⑮各項目の内訳データをまとめた。

### 4. 参考指標の内訳

「資料2-3」に参考指標の内訳データをまとめた。

